

右 フラットな塗りに見えるアンソニー・イアコノの絵画《真紅の輝き》(2020)は、紙を貼り付けたコラージュ! (1,800~12,000ドル)。下 玉虫色の奇妙なオブジェはグレイスリー・ローレンスによる3Dプリント《特別なハンガー》(2020)。これ一作で注目を集め、限定10点は完売(450~500ドル)。



Lauren Marinaro
画廊オーナー/ ディレクター

2000年代の注目ディーラー、ザック・フォイヤーのもとで画廊経営を学び、2015年に独立。スタッフは2人ながら扱い作家は総勢17人。

見る目を養うにはたくさんのプロと話すこと

Marinaro

マリナーロ

「画廊サイトで気に入ったものがあったら、海外からでもメールして自分の興味を伝えてみる。画廊にはそれぞれ扱う作家に傾向があり、さまざまな情報が集まってくる」。こんな積極策を奨励するローレンは、アートを買う第一歩はギャラリストとの対話からと信じている。地下2階を含む3フロアのスペースでは、新進作家の個展や実験性の強いグループ展が6週間おきに登場。在野のキュレーターやギャラリスト仲間との共同企画も多く、「アートビジネスの資本は、ズバリ「人」」。たくさんのプロと接することで、見る目が養われるという。www.marinaro.biz

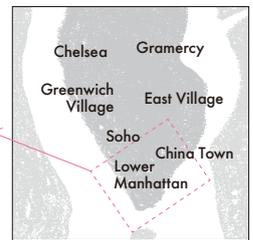


1



今最もハプニングなエリア 「トゥーブリッジズ」を探訪!

パンデミックで閑散となった街で、新たなアートが芽吹き始めた場所がブルックリン橋とマンハッタン橋の巨大橋桁に挟まれた、通称「トゥーブリッジズ」。シーンを牽引するギャラリーの“押し”作品を拝見



2

版画や写真集、手の届く選択肢も用意

Lubov

ルボフ



Francisco Correa Cordero
画廊オーナー/ ディレクター

展覧会企画の面白さにハマってスペースを持ったのが5年前。新人作家に初個展の機会を与える画廊としてアート界の信頼は厚い。

有名コレクターが最初買ったアートが、小さな版画だったという例は珍しくない。ルボフでは、10年ぶりのカムバックで注目を集める画家シャノン・カルティエ・ルーシーの話題作のいくつかを限定50点のプリント版で発表している。油彩画は2万ドル以上だけれど、このプリント版なら475ドル。また、ダンサーをモデルに女性の視線や身体を捉える写真作品で知られるジェナ・ウェストラの「アフタヌーン」シリーズは、サイズにより1,200~3,600ドル。限定500部の写真集なら30ドルだ。少しずつグレードアップしていくのも、アートを買う楽しみの一つ。www.lubov.nyc

上 ジェナ・ウェストラの写真《水を通したレモンの眺め》(2020) 右 シャノン・カルティエ・ルーシーのちょっと不思議な絵画《新居》(2017) 中央 二人展に登場したキアラ・イブラの素焼きの彫刻《チャンネル・メイス》(2021)もファンキーだ。

